



第十六章

栄枯

夫の運転好きは前にも書いたことがあるが、最近、新車に代わったため、その勢いに拍車がかかっている。(新しいおもちゃを手に入れてしまったか…)と諦めつつも、「そうだ青森へ行こう! (車で)」と言う夫の言葉には、いささか呆れてしまう。なんで突然、青森なの? と問うと、以前、仕事で奥入瀬溪流に行ったのだが、その眺めをゆっくり愉しめなかったから、というのが理由。腹が立つほど嬉しそうにハンドルを握る夫に、私はもう嫌みの一つも出てこなかった。

あいにくの天気だったが、十和田湖から奥入瀬溪流に入っていくと、木々の香りやせせらぎの音に包まれ、心が洗われてゆくようだ。春とは言え、青森はまだ肌寒い。所々に根雪が残っている道をさらに奥へと進み、玉簾の滝を抜けて、雲井の滝で車を止めた。融け出した雪で足を滑らせないよう、ゆっくり付近を探索してみる。

「これ、すごいね?」という夫の声で近づくと、大きな木の根を眺めている。中は空洞で、根元から上はなくなっている。樹皮は剥がれ落ち、まるでかさぶたを剥がした跡のように痛々しいが、形骸となってもその幹は、周りの木々よりもはるかに太い。下草から芽生えた小さな実生が、これほど立派な樹木に成長するには、かなりの年月を必要としただろう。

すでに枯死しているはずのその木が、それでもなお、しっかりと大地に根を張っている様は、「私は確かにここで、空に雄々しく幹を伸ばしていたんだ」と語りかけてくるようだ。私は、すでにない幹の先をたどるようにして、空を仰いだ。ふと気付くと、傍らの夫もやはり空を見上げていた。

Profile

尾形正茂 株式会社シェルパの代表であり、カメラマンとして広告や雑誌の他、CDジャケットやグラビアなどに携わり日々格闘中。

尾形 操 平成17年よりフリーとして独立。現在はMacによる広告などのレイアウト・デザインに携わり日々格闘中。

シェルパホームページ

▶ <http://www.sherpa-jp.com>

1都1道2府43県〇一期一景

photo: Masashige Ogata, writing & layout: Misao Ogata

